

令和4年度
ふるさと島根寄附金活用事業成果報告書
～寄附金を活用した事業～

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる

島根*創生
SHIMANE SOUSEI

(問い合わせ先)

〒690-8501 松江市殿町1番地

島根県政策企画監室

電話番号：0852-22-6840

FAX番号：0852-22-6034

電子メール：kifu@pref.shimane.lg.jp

～目 次～

| | | |
|----|----------------------|------|
| I | 活用成果の概要 | -1- |
| II | 寄附金を活用して実施した事業の成果 | -3- |
| 1 | 新型コロナウイルス感染症対策に関する事業 | -3- |
| 2 | 産業の振興に関する事業 | -4- |
| 3 | 自然環境の保全に関する事業 | -10- |
| 4 | 医療・福祉の充実に関する事業 | -16- |
| 5 | 教育・文化の振興に関する事業 | -21- |
| 6 | 子どもの読書活動の促進に関する事業 | -29- |
| 7 | 竹島の領土権の確立に関する事業 | -32- |
| 8 | 森林の保全及び整備に関する事業 | -35- |
| 9 | 防災対策の推進に関する事業 | -37- |
| 10 | 移住・定住の促進に関する事業 | -39- |
| 11 | 結婚・出産・子育ての支援に関する事業 | -41- |

I 活用成果の概要

| 寄 附 メニュー | 寄附を活用した 事業費（千円） | 令和3年度 寄付額（円） | 令和4年度 寄附額（円） |
|----------------|--------------------|-----------------|-------------------|
| 新型コロナウイルス感染症対策 | 473,861千円 | 11,337,682円 | 2,415,162円 |
| 産業の振興 | 8,086千円 | 1,638,000円 | ※1 1,520,000円 |
| 自然環境の保全 | 6,966千円 | 3,364,000円 | 2,540,000円 |
| 医療・福祉の充実 | 3,910千円 | 3,133,000円 | 2,085,000円 |
| 教育・文化の振興 | 6,776千円 | 3,160,000円 | 2,100,000円 |
| 子どもの読書活動の促進 | 1,831千円 | 2,150,000円 | 2,220,000円 |
| 竹島の領土権の確立 | 10,273千円 | 9,100,905円 | 4,039,905円 |
| 森林の保全及び整備 | 3,853千円 | 625,000円 | 365,000円 |
| 防災対策の推進 | 888千円 | 969,000円 | 445,000円 |
| 移住・定住の促進 | 43,317千円 | 610,000円 | 3,125,000円 |
| 結婚・出産・子育ての支援 | 493千円 | 2,640,000円 | ※2 2,145,000円 |
| 指定なし | — | 7,861,111円 | ※3 10,110,300円 |
| 合計 | 560,254千円 | 46,588,698円 | 33,110,367円 |

いただいた寄附は、ふるさと島根基金に積立て、前頁のとおり令和4年度の事業に一部を活用させていただきました。

お寄せいただいた寄附が目標額に達しなかった場合は、これまでに積み立てた基金から不足額を補い、目標額を超えた場合は、次年度以降に活用します。

★令和4年度は1,429件、33,110,367円の寄附をいただきました。

※1「産業の振興」への寄附金の一部は、「移住・定住の促進」に配分して活用させていただきました。

※2「結婚・出産・子育ての支援」への寄附金の一部は、「医療・福祉の充実」と「子どもの読書活動の推進」の事業と併せて活用させていただきました。

※3「事業の指定なし」分は、「移住・定住の促進」に配分して活用させていただきました。

Ⅱ 寄附金を活用して実施した事業の成果

1 新型コロナウイルス感染症対策に関する事業

(1)対象事業

医療従事者への危険手当補助事業

(2)事業の成果及び事業費

新型コロナウイルス感染症患者の治療等に従事した医療従事者へ手当を支給した医療機関に対して、その手当の一部を助成することにより、対象医療機関における医療従事者の処遇向上に寄与しました。

(3)補助実績

補助事業者：38医療機関

合計補助額：473,861,000円

※対象医療機関

- ・病床確保計画における入院医療機関
- ・感染症指定医療機関
- ・県から新型コロナウイルス感染症患者等の入院病床確保要請に応じた医療機関
- ・その他知事が適当と認めるもの

2 産業の振興に関する事業

(1)対象事業

- ①出雲コーチン種生産対策事業
- ②未来へつなぐ工芸品総合振興事業
- ③島根県グローバル人材育成支援事業

(2)事業の成果及び事業費

①出雲コーチン種生産対策事業

「出雲コーチン」の原種保存と特産化に向け取り組みました。

事業費：800千円

在来種鶏「出雲コーチン」を活用した地鶏肉の生産体制を確立しました。

ア 令和3年度までの取組と成果

- ・生産者、JA、出雲市、出雲農林高校、畜産技術センターを構成員とする「出雲コーチン利用促進協議会」を設立しました。
- ・原種の保存に必要な施設を整備しました。
- ・地鶏肉生産に向けた交配種及びコマーシャル鶏飼育方法を検討しました。

イ 令和4年度取組と成果

(ア)出雲コーチン原種の保存（増殖）

- ・県畜産技術センターで原種を飼育し、採取した有精卵を人工孵化させることで原種の保存と増殖を図りました。（原種飼育羽数約30羽）
- ・伝染病等による原種絶滅のリスクに備えて、新たに3戸で飼育を開始し分散飼育を拡大させました。

また、鶏舎周辺へのフェンス設置や石灰消毒の実施、訪問者に対する注意喚起の掲示等により防疫対策を強化しました。



※鶏舎周辺へのフェンス設置、石灰消毒

(イ)農林高校における研究教材としての活用

- ・出雲農林高校において、原種の保存に加え、繁殖性及び肉質・卵質の向上に向けた各種研究に取り組んでいます。

(ウ)コマーシャル販売

- ・出雲市内の飲食店で約600羽を提供しました。

②未来へつなぐ工芸品総合振興事業

東京都及び大阪府で開催される伝統的工芸品展WAZAに島根ブースを設け、首都圏及び関西圏の消費者に島根県の伝統的工芸品のPRを行うことで、県内の工芸品の販路拡大を推進しました。

事業費：929千円

(一財)伝統的工芸品産業振興協会が主催する伝統的工芸品展WAZAは、令和4年度から従来の東京会場に大阪会場を加えた2会場で実施されました。

島根県からは、東京会場に5事業者、大阪会場に9事業者が出展し、島根県の伝統工芸品のPRを行いました。

<大阪会場>

- ・開催日：令和4年8月24日 ～ 令和4年8月29日
- ・会場：阪急うめだ本店（大阪府大阪市北区角田町8-7）
- ・出展者：
 - 伝統的工芸品製造事業者
 - ・石州和紙（かわひら）
 - ふるさと伝統工芸品
 - ・雲州幸光刃物（楠鍛錬工場）
 - ・福こづち（大社木工）
 - ・温泉津焼（（有）椿窯）
 - ・松江彫（工房とんぼ）
 - ・石州亀山焼（石州亀山焼）
 - ・長浜人形（島根の招き猫工房）
 - ・火の川焼（松江陶苑）
 - ・八雲塗（八雲塗やま本）

<東京会場>

- 開催日：令和5年2月23日 ～ 令和5年2月28日
- 会場：松屋銀座（東京都中央区銀座3-6-1）
- 出展者：

○ふるさと伝統工芸品

- まつえ和紙てまり（絹川令子）
- 石見神楽面（柿田面工房）
- 松江彫（工房とんぼ）
- 出雲めのう細工（（株）めのや）
- 長浜人形（島根の招き猫工房）



※国指定の石州和紙



※ふるさと伝統工芸品事業者



※ふるさと伝統工芸品事業者

③島根県グローバル人材育成支援事業

島根県内企業でのインターンシップや海外留学等を通じて、卒業後、県内産業・地域活性化に貢献するグローバルな人材を育成し、県内への定着を図ることを目的として、県内外の高等教育機関に通う学生を選定し派遣を行いました。

事業費：6,357千円

令和2、3年度はコロナ禍の影響により学生の派遣は中止していましたが、令和4年度は海外留学を再開し、4人の学生の派遣を行いました。

| 所属 | 留学先 | 目的 |
|------------|--------|--|
| 島根大学 | アメリカ | 国外での知的好奇心を育てる教育と安定した食に対するグローバルな市場の価値観の理解 |
| 島根県立大学 | タイ | 島根県産品のASEAN諸国への販路拡大に向けた支援スキームの創出 |
| 松江工業高等専門学校 | マルタ共和国 | 世界の仲間と繋がって、グローバルITリーダーとして、ユニークなシステム開発をしながら新技術を広められる人材に |
| 松江工業高等専門学校 | シンガポール | 語学力の獲得と研究分野「自然言語処理」を学ぶ |

令和4年度中に海外留学を終えた2名（島根大学1名、島根県立大学1名）については、活動報告として副知事への表敬訪問を行いました。

(<https://www.tobitate-shimane.jp/news/390>)

3 自然環境の保全に関する事業

(1)対象事業

- ①穴道湖・中海賢明利用推進事業
- ②生物多様性保全事業

(2)事業の成果及び事業費

①穴道湖・中海賢明利用推進事業

自然豊かな穴道湖・中海への関心を深めてもらうとともに、水質保全等の環境意識を高め、ラムサール条約の柱である、保全再生、賢明な利用（ワイズユース）、環境教育・交流・普及啓発の事業を実施しました。

事業費：6,062千円

ア 水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業

(ア)湖沼環境モニター調査

- ・周辺住民の参加により、人の五感で穴道湖・中海の評価を行う「湖沼環境モニター」事業を実施しました。（モニター数93名、2団体）

(イ)穴道湖・中海流入河川調査

- ・小中学校や公民館等で流入河川の水質等の調査を行ってもらい、学習発表会やポスター作成などの優秀な取組を行った団体を表彰しました。（参加団体 35）



※穴道湖・中海流入河川調査

イ ラムサール・大型水鳥啓発事業

(ア)ラムサールイベント

- 中海周辺をサイクリングやランニング、ウォーキングで自由に巡る「中海バイク&ラン+(プラス)」を2日間のスタンプラリー形式で行いました。(参加人数118人)



第7回 中海 バイク&ラン プラス

今年はプラス!!

2022 11/19日・20日 参加費無料 先着150名

開催時間 8:30~16:30 (同日も1日目のみの参加OK!)

事前申し込みが必要で**参加者募集!!**
11月16日(水)まで

スマートフォン、タブレットは、スタンプポイントを目ざまわり、中海の犬島の風景や風景を、GPS機能を用いた非接触型の電子スタンプラリーです。

スケジュール 受付:八東千本桜公園(津島海岸2年八次第二子)

| | |
|-----------------|-------------------|
| バイク | 8:30受付開始/9:00スタート |
| ランニング ウォーキング | 9:00受付開始/9:30スタート |
| 全参加者 | ゴール/16:30付+30分後 |

スタンプを獲得し
地元産品等々ゲット!

今年は「映える写真賞」も実施!

ncx.shimane@gmail.com

参加方法

スマホorタブレットがあればどなたでも参加できます!

※参加者の電子スタンプラリーは「TRAVEL」アプリを通してスタート/ゴールのスポットに設置したGPS装置をトリックしてスタンプです!

※スマートフォンは、同じ会場を複数回、同じ目的地を複数回通過する場合は、その目的地で「写真の撮影」(写真撮影は無料)の撮影の撮影を促しています。上記は、写真撮影の目的を促すことで、写真撮影の促進を図ります。

申込方法

この大会の申込は、参加費が無料です。申込は、申込書の提出が必要です。申込書は、申込書の提出が必要です。申込書は、申込書の提出が必要です。

申込書は、申込書の提出が必要です。申込書は、申込書の提出が必要です。申込書は、申込書の提出が必要です。

主催 島根県、鳥取県 共催 中海・宍道湖・大山園城市長会

協賛 株式会社中海テレビ放送、株式会社彩雪堂、株式会社進藤村サントリーブドック株式会社、天然水炭火大山の森工場

問合せ NPO法人サイクリストビュー

TEL / 0852-21-3320-366-980-980

mail / ncx.shimane@gmail.com

中海 バイク&ラン プラス

コース内容

ジオと海岸線を楽しむ
体験コース (A,B,C)

ゲゲゲコース (A,B,C,F,G,H,K)

中海の南に大山を
一環コース (D,E)

鉄人コース (A~Kの全て)



ご注意

- ★スタンプラリーの参加と景品の応募は、スマホorタブレットの持参が必要です。
- ★自転車の方は、ヘルメットの着用を義務とします。
- ★参加者全員に対して、当日の傷害保険に加入しています。
- ★参加規約は、応募の欄にPDFにてご確認ください。
- ★スタンプポイントでは、必ず裏面の安全を確認してからスタンプを獲得してください。
- ★コース詳細については上記コースの二次元コードをご確認ください。

このイベントはふるさと鳥取県民会を活用して実施しています。



(イ)大型水鳥を活用した広域ネットワーク支援事業

- ・トキ・コウノトリが生息できる田んぼビオトープの設置や地域住民を対象とした「幸せを運ぶコウノトリ」学習会を県、出雲市、雲南市及び民間団体などで構成する協議会の事業として開催しました。

②生物多様性保全事業

生物多様性を保全し、しまねの豊かな自然環境を守るため、近年問題となっている外来種に関し県民の問題意識向上を図りました。

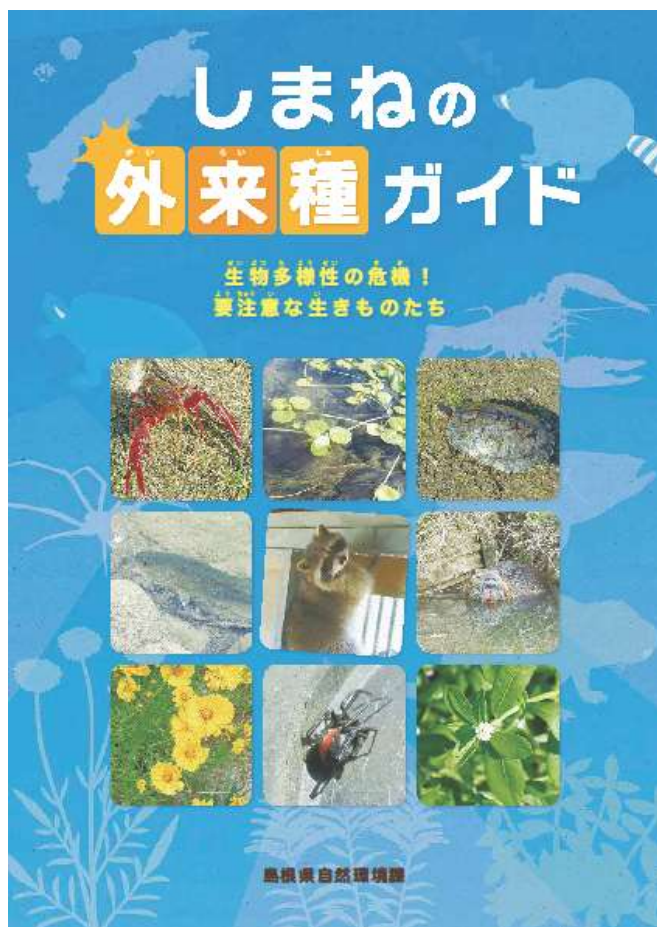
各地域の貴重な自然に悪影響を与えている外来種の駆除の取り組みを行い、被害拡大の防止に取り組みました。

事業費：904千円

ア 外来種リーフレット作成

- ・外来種に関する県民の問題意識向上を図るため、令和4年度は、県立三瓶自然館サヒメルの学芸員監修のもと、「しまねの外来種ガイド」と題したリーフレットを作成しました。

内容としては、外来種問題を身近に感じてもらえるよう、イラスト等を変える、なるべく平易な言葉を使用する、などの工夫を行いました。



イ 外来種駆除対策

以下の外来種駆除の取り組みによって外来種による被害の拡大を防止するとともに、生物多様性の保全を行いました。

(ア) セイヨウスイレン駆除

- 大山隠岐国立公園三瓶地区の姫逃池において県の天然記念物カキツバタ群落の保全のため、セイヨウスイレンを被覆シートで覆うことで光合成を阻害し、駆除を実施しました。

(イ) オオキンケイギク駆除

- 大山隠岐国立公園三瓶山近隣に一部定着しているオオキンケイギクについて、地元住民及び緑と水の連絡会議と協力し駆除を実施しました。



(ウ) ミシシippアカミミガメ駆除

- 松江市内の河川に定着しているアカミミガメについて、地元住民と協力し駆除及び普及啓発活動を実施しました。

4 医療・福祉の充実に関する事業

(1)対象事業

- ①がん関連図書整備事業
- ②がん患者社会参加応援事業（医療用ウィッグ等購入経費助成事業）
- ③障がい者芸術文化活動支援事業
- ④戦争体験を語り継ぐ次世代継承事業
- ⑤障がい者施策推進事業（ヘルプマーク普及推進事業）

(2)事業の成果及び事業費

①がん関連図書整備事業

がんに関する知識の普及を図るため、がんの一般知識、闘病記、小児・AYA世代に関する図書等を購入し、県立図書館に設置しました。

事業費：100千円

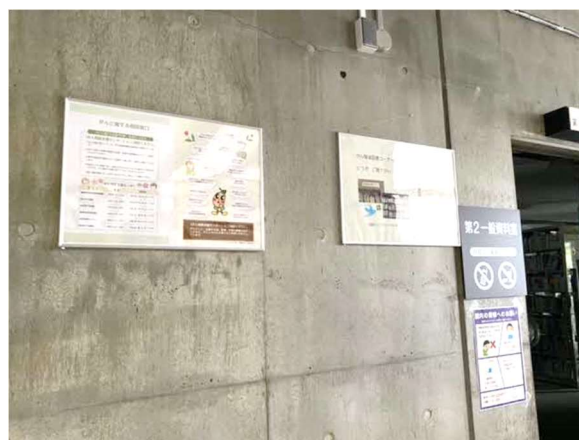
令和2年度より、寄附金の活用を開始しました。

寄附金の活用により、がんの最新情報が掲載された新刊図書を購入し、10月の「乳がん啓発月間」に図書館で実施したクイズラリーで図書館に配置されているがん情報に関する図書の紹介をするなどして、がん情報を広く閲覧いただくことができました。

<内訳等>

冊数 30冊

補助額 100,000円（内、ふるさと島根寄附金100,000円）



②がん患者社会参加応援事業（医療用ウィッグ等購入経費助成事業）

がん治療によって乳房切除や脱毛などを余儀なくされた患者さんに対し、補整下着及び医療用ウィッグの購入費を助成することで外見変化に関する悩みを軽減し、社会生活参加を促しました。

事業費：1,969千円

今年度は108件の助成を実施しました。

県のホームページや県内のがん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターなどで広報を行い、幅広い年代の方にご活用いただきました。

<内訳等>

件数 108件（ウィッグ 97件、補整下着 11件）

補助額 1,969,000円（内、ふるさと島根寄附金1,480,000円）

※2万円を上限とし、購入金額の1/2を助成しました。

事業初年度（H29年度）と比較すると申請件数は1.5倍以上となっており、助成を受けられた方からは「元気が出た」「とても助かる」などのご感想をいただいています。

この事業が広まるとともに、がん患者の就労等の社会参加の促進や療養生活の質の向上に寄与していると考えます。



③障がい者芸術文化活動支援事業

障がい者の個性と能力の発揮及び社会参加を推進することができる文化芸術活動支援の体制づくりの一環として、作品集を作成しました。

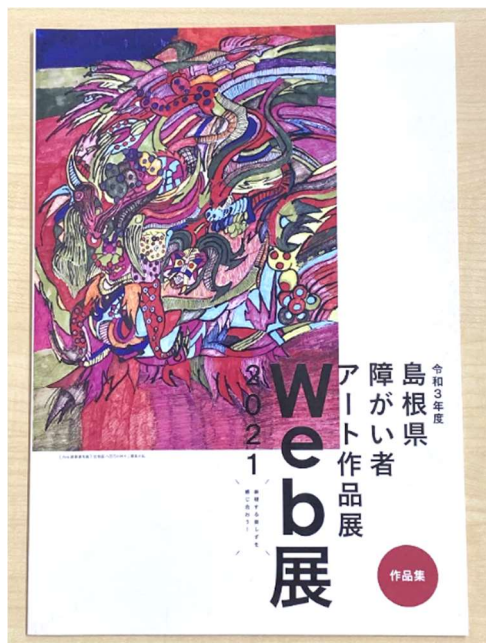
＜作成部数＞1,000部　＜配布箇所＞出展者、事業所等

事業費：500千円

ア 島根県障がい者文化芸術活動支援センターを広く知ってもらうための広報ツールとして活用しました。

イ 障がい者の作品や障がい者芸術文化活動に取り組んでいる事業所・団体等の情報が掲載されているため、県内の芸術文化活動を紹介するツールとして、関係機関等の情報共有に活用しました。

ウ 文化芸術作品のアーカイブとして活用しました。



④戦争体験を語り継ぐ次世代継承事業

県内の戦没者遺族会が設置する孫・ひ孫等で構成される会（以下「孫・ひ孫等の会」という。）が行う、語り部養成研修会開催事業及び語り部等継承活動に係る事業に対し必要な補助を行い、もって戦争を経験していない世代へ、戦争体験を継承し、戦争非体験者に語り継ぐことを目的とするものです。

事業費：100千円

ア 孫・ひ孫等の会が開催する語り部養成研修会関係

- ・日時：令和4年10月9日
場所：雲南市大東地域交流センター
- ・ベテランの語り部が講師となって、受講者（孫・ひ孫等）の語り部としてのスキルアップを図りました。
- ・戦時中の資料（書籍等の参考文献）の読み合わせ、戦争体験の聴講、話し方（技術）などを57名の孫・ひ孫等が学びました。

イ 孫・ひ孫等の会の会員が行う語り部など継承活動関係

- ・時期：令和4年5月～令和5年3月（計7回）
場所：雲南市内小中学校（うち7校で実施）
- ・いずれも孫・ひ孫等の会が学校等との連絡調整を行いました。
加えて、ファシリテーターとして参画し基礎知識の資料の提供・説明を行い、語り部としてのスキルアップを図りました。
- ・受講者（児童生徒）はベテランの語り部から様々な戦争体験を聴講し、平和の意義を学びました。

<開催実績>

| | |
|-------------------|------------------|
| 海潮中学校（5月26日／10人） | 木次小学校（5月27日／45人） |
| 斐伊小学校（6月10日／40人） | 寺領小学校（6月16日／35人） |
| 大東小学校（10月21日／35人） | 西小学校（2月28日／38人） |
| 三刀屋小学校（3月11日／70人） | |

⑤障がい者施策推進事業（ヘルプマーク普及推進事業）

外見からは援助や配慮を必要としていることが分かりにくい方が、周囲に配慮を必要としていることを知らせるための「ヘルプマーク」の普及を図り、必要とされる方に交付しました。

事業費：1,241千円

ア ヘルプマークのPRのため、デジタルサイネージの放映及びフェイスブック広告の配信を行い、効果的な周知に努めました。

イ 障害者週間に合わせて「あいサポート運動」とヘルプマーク啓発用前幕をバス80台に掲示しました。

ウ 障がいの特性や必要な配慮を学び実践する「あいサポート運動」の啓発冊子にヘルプマークの意味や必要な援助を盛り込み、ヘルプマークへの理解を促進しました。

ヘルプマーク交付数675枚、あいサポート研修回数101回



5 教育・文化の振興に関する事業

(1)対象事業

- ①県所蔵の美術作品を活用した教育文化振興事業
- ②世界を目指すアスリート支援事業
- ③島根県立美術館「島根ゆかりの美術」調査研究及び普及啓発事業
2021年度に寄贈を受けた写真家・奈良原一高とグラフィック・デザイナー
勝井三雄の受贈記念展覧会事業

(2)事業の成果及び事業費

①県所蔵の美術作品を活用した教育文化振興事業

郷土出身の彫刻家である故澄川喜一とその作品を広く紹介し、島根の美術・文化の継承を図りました。

事業費：930千円

吉賀町出身の故澄川喜一は、世界的にも評価された郷土を代表する彫刻作家です。

2020年には文化勲章を受章するなど、名実ともに島根の「ものづくり」にも大きな影響を与えています。

<成果物>作品鑑賞ガイド「澄川喜一の仕事展 鑑賞ガイド」

- ・制作部数：10,000枚
- ・配布先：益田・鹿足・一部益田以外の小中学校及び来館者（希望者）
- ・残数は、島根県立石見美術館及び島根県立美術館にて継続的に活用予定です。

<概要>

- ・鑑賞ガイドを作成するにあたり、展覧会内容の理解を深めること、子どもから大人まで幅広い世代に読んでもらうことを目的としました。
- ・鑑賞ガイドはLINEなどを模して展示室を歩く二人の間に交わされる「会話」形式とし、読み手は上から下に向かって積み重なっていく二人の会話を読むうちに、彫刻家・故澄川喜一の人物像と作品の見どころについて知ることが出来るという構成にしました。

- ・デザインについては故澄川喜一の作品の特徴である「そのりのあるかたち」や木の風合いを活かしたものにし、展覧会会場のデザインと統一感をもたせました。

仕事

2023 **2/4** sat
→ **4/3** mon

【開館時間】朝9時半から夕方6時まで
（展示室への入場は5時半まで）
【休館日】毎週火曜日（3月21日（祝祭日）、3月22日（水））

島根県立石見美術館
〒698-0022 島根県石見市宍道町3-1-17
（徳橋川芸術交流センター「グラントワ」1階）
TEL 0856-31-1800（代表）
FAX 0856-31-1881（代表）
E-mail: izaidan@grandtoit.jp
<https://www.gmaddc.or.jp/>

彫刻家

特別展 受贈記念

澄川喜一



かんしょう
鑑賞
ガイド

グラントワ
Grand Toit

②世界を目指すアスリート支援事業

全国トップレベルで活躍している島根県のアスリートが世界を舞台に活躍するために更なるレベルアップを図ります。

事業費：3,556千円

ア 国内や国外での大会や遠征に参加するための経費を支援

- ・対象選手：13名
- ・県外遠征：8回 海外遠征：6回

イ 対象選手と実施内容

○細木咲良（テニス・原商）

- ・ITFW25YOKOHAMA大会 ベスト8
- ・ITFW25KYOTO大会 ベスト8



※ITFW25KYOTO大会

○佐伯昂大（ホッケー・横田高校）

- ・マレーシア開催の国際大会に参加



※前列右から4番目が佐伯選手

○橋本寧々（カヌー・出雲農林高校）

○三島まりあ（カヌー・出雲農林高校）

- ・ハンガリー開催の世界ジュニア選手権に参加
- ・アジア・パシフィック・カヌースプリント大会

U18 カヤックペア女子 500m 4位

U18 カヤックフォア女子 500m 4位



※世界ジュニア選手権（左側が橋本選手、右側が三島選手）

○廣戸舞（カヌー・出雲農林高校）

○周藤はるか（カヌー・出雲農林高校）

・アジア・パシフィック・カヌースプリント大会

U18 カヤックフォア女子 500m 4位

○磯田朔治（カヌー・出雲農林高校）

・スロバキア開催のオリンピックホープスに参加

（※感染症拡大により、派遣中止）

○河野賢晃（カヌー・島根中央高校）

○河野文晃（カヌー・島根中央高校）

・アジア・パシフィック・カヌースプリント大会

U16 カヤックペア男子 500m 3位

U16 カヤックフォア男子 500m 3位

○河村大樹（カヌー・島根中央高校）

○吉村颯人（カヌー・島根中央高校）

・アジア・パシフィック・カヌースプリント大会

U16 カヤックフォア男子 500m 3位



※アジア・パシフィック大会

○津森志道（フェンシング・法政大学）

- ・チュニジア、ポーランドで開催のワールドカップに参加
- ・フランスの日本代表合宿に参加

○遠藤駿斗（フェンシング・安来高校）

- ・セルビアで開催のジュニアワールドカップに参加

③島根県立美術館「島根ゆかりの美術」調査研究及び普及啓発事業

事業費：2,290千円

ア 大正末期に島根に滞在し当地に大きな足跡を残した水彩画家・版画家織田一磨に関する特集展示をしました。

＜作品の借用・展示＞

収蔵品に加え、県内各所から作品を借用し、計112点におよぶ作品・資料を展示しました。

展示内容や作品説明のためのキャプションやパネル類も作成しました。



ごあいさつ

この度高根県立美術館では特展「米松100年 織田一磨」を開催いたします。

近代石版刷のバイオニアである織田一磨(1882-1956)、それまで東京や大阪で水彩画家・版画家として活躍していた彼は、1922(大正11)年の晩秋、山陰へ漂泊の旅に出ます。旧知の版画家・平塚運一に誘われ松江を訪れた一磨は、それから約3年間当地に滞在。穴道調や中海などの美しい風景に魅れ、また島根の青年画家たちと交際する中で刺激を受けた一磨は、いっしょにこの地に美術研究所を開きたいという強い思いを抱きます。山陰でスケッチ旅行をしながら描き溜めた水彩画などを展示販売した資金をもとに、1925(大正14)年の夏、市内赤山に創作版画研究所を開院。その活動期間はわずか半年ながら(松江大橋雪景)などの傑作が生み出され、実りの多いものとなりました。

織田一磨米松100年を記念した本展では、近年収集された作品を含む当館コレクションを中心に、山陰での足跡をたどれる関連資料を見えながら、この松江時代を振り返ります。およそ100点の作品・資料によって浮かび上がる約100年前の情景をお楽しみください。

最後になりますが、本展開催に際しまして多大なるご協力を賜りました織田一磨ご遺族の皆様、また貴重な作品・資料をご出品賜りましたご所蔵者の皆様に、心より御礼申し上げます。

高根県立美術館

※本展は予約は不要ですと最晩年の作品を展示して開催されています。

<広報用印刷物や小冊子の作成・配布>

展覧会の概要を伝えるチラシ（B5両面カラー）4000枚と、展覧会の内容をまとめた小冊子（B5判12頁カラー）2000部を作成し、県内外各所や来場者に配布しました。

<講演会の実施>

日本近代美術・版画史研究者の小池智子氏を招き、「風景の記憶—織田一磨の石版画」と題して令和5年1月7日に記念講演会を行いました。

イ 2021年度寄贈を受けた写真家・奈良原一高とグラフィック・デザイナー勝井三雄の受贈記念展覧会を開催しました。

2019年、2020年に逝去されたふたりの作家のご遺族より、2021年度、まとまった作品の寄贈をいただきました。寄贈いただいたご遺族をお招きして、感謝状を授与しました。

そのお披露目として、展示室4と5の二部屋を使い、受贈記念展を開催しました。

戦後日本を牽引した写真家・奈良原一高と、グラフィック・デザイナー勝井三雄、ふたりはデビュー当初から、亡くなるまで互いに信頼しあう親友であり、その作品群は多くの来館者に感動を誘いました。

奈良原一高の寄贈作品は、多数のため、2023年度、2024年度にも引き続き開催します。

受贈記念
奈良原一高 × 勝井三雄

2022
9.2 [FRI] - 11.28 [MON]
島根県立美術館
展示室4・展示室5

【観覧料】
一般 1,000円 / 学生 500円 / 高齢者 400円
（65歳以上・高齢者優待）
75歳以上 / 高齢者優待 / 年間パスポート
（25歳以上・65歳未満）
【休館日】 火曜日

島根県立美術館
1-1-1 島根県松江市 1-1-1 島根県立美術館
TEL: 0854-22-1111 FAX: 0854-22-1112
www.shikoku-museum.jp

6 子どもの読書活動の促進に関する事業

(1)対象事業

- ①学校図書館活用教育図書整備事業
- ②ビブリオバトル島根県大会開催事業
- ③おすすめしたいこどものほん事業

(2)事業の成果及び事業費

①学校図書館活用教育図書整備事業

県立図書館が県内すべての市町村に寄託している「学校図書館活用教育図書」について、内容の古くなった図書や、教科書の改訂で新たに必要となった図書等の買換えや補充を行いました。

事業費：360千円

令和4年度は各市町村からの要望に応じて、18市町村の公共図書館等108冊の図書を寄託しました。（1町は希望なし）

島根県立図書館にも28冊の図書を受入し、直接来館や市町村の公共図書館を通じて、学校や個人に貸出できるように整備しました。

これによって、学校での図書館活用教育が一層充実するとともに、県内の公共図書館と学校図書館の連携が深まりました。

<購入冊数>136冊

<購入内訳>

- | | | | |
|---------|----------|------------|---------|
| ・松江…6冊 | ・安来…7冊 | ・出雲…6冊 | ・雲南…6冊 |
| ・奥出雲…5冊 | ・飯南…6冊 | ・浜田…6冊 | ・大田…8冊 |
| ・江津…6冊 | ・川本…5冊 | ・邑南…5冊 | ・益田…6冊 |
| ・津和野…6冊 | ・吉賀…5冊 | ・海士…8冊 | ・西ノ島…5冊 |
| ・知夫…6冊 | ・隠岐の島…6冊 | ・県立図書館…28冊 | |

②ビブリオバトル島根県大会開催事業

言葉の力や表現力によって、高校生たちが互いに本の魅力を紹介し、最も読みたくなった本を参加者の投票で決定するビブリオバトルの島根県大会を開催しました。

事業費：121千円

県内の高等学校から10名の高校生が発表者として参加し、全国高等学校ビブリオバトル2022島根県大会を開催しました。

当日は発表者それぞれが、読んで面白いと思った本を紹介し、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に、観戦者や運営スタッフを含む参加者全員の投票で「チャンプ本（最多票を集めた本）」を決めました。

この大会を通じて、開催の趣旨である「人を通じて本を知る。本を通じて人を知る。」というビブリオバトルの理念に基づき、読書活動を推進し、言語能力・コミュニケーション能力の向上を図る機会とすることができました。

<開催概要>

日時：令和4年12月10日（土）13:00～16:10

場所：県立男女共同参画センターあすてらす

大会参加者：82名（発表者、運営スタッフを含む）



③おすすめしたいこどものほん事業

推薦図書リスト「おすすめしたいこどものほん」に掲載する図書を購入し、市町村図書館等への貸出や巡回展示を実施しました。

事業費：1,350千円

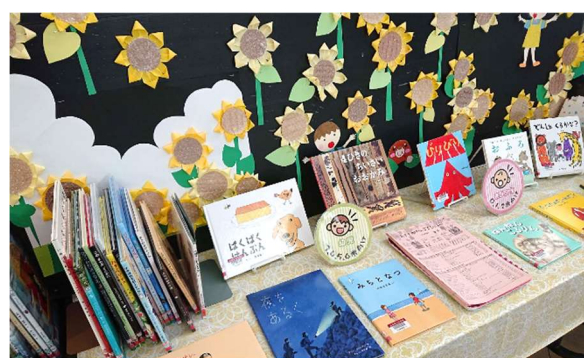
推薦図書リスト「おすすめしたいこどものほん」（乳幼児向け、小学生向けの2種類）に掲載する本の選書、並びに図書の購入を行い、県民や図書館、学校等の団体に貸出を行いました。

市町村図書館、幼稚園、読み聞かせボランティア等の活動に役立てるために、県立図書館地域支援室と西部読書普及センターの2箇所にもリストに掲載された図書を整備し、5つの市町村で巡回展示を実施しました。

県立図書館では7月から9月の3か月間、子ども室前のスペースで「おすすめしたいこどものほん2022」の資料展示を行い、夏休み中の子どもたちに貸出・利用されました。

<購入冊数内訳>

- ・県立図書館子ども室 選書・貸出用 268冊
- ・県立図書館地域支援室 貸出・巡回展示用 289冊
- ・西部読書普及センター 巡回展示用 117冊 合計674冊



※県立図書館での資料展示

7 竹島の領土権の確立に関する事業

(1)対象事業

竹島領土権早期確立対策事業

(2)事業の成果及び事業費

竹島問題の解決に向け、国民世論の啓発を図るため、広報啓発活動を実施しました。

事業費：10,273千円

ア 「竹島問題を考える講座」の開催

竹島問題への理解を深めるため、竹島問題の研究者等を講師に招き、一般向けの講演会を3回開催しました。

| | 講 師 | 会 場 |
|-----|-------------------|-------|
| 第1回 | 県竹島問題研究会委員 永島広紀氏 | 浜田市 |
| 第2回 | 県竹島問題研究特別顧問 下條正男氏 | 隠岐の島町 |
| 第3回 | 県竹島問題研究顧問 藤井賢二氏 | 松江市 |

イ 広報啓発資料等の作成

竹島問題の啓発を図るため、啓発資料や啓発用グッズ等を作成し配布しました。

<啓発グッズ>

ステッカー 3,000枚、缶バッジ2,500個、うちわ1,000本等

ウ 竹島資料室の展示内容等の充実

(ア)出張竹島資料室の開催（7月：出雲市、8月：益田市）

竹島資料室展示資料の出張展示を県内2会場で実施しました。

(イ)夏季企画展示の開催（7月20日～8月29日）

夏休み期間中に子供たちに向けた企画展示を実施しました。

(ウ)竹島の日記念特別展示の開催（1月25日～3月27日）

「李承晩ラインと竹島問題」をテーマに特別展示を実施しました。

(工) 学生解説員の委嘱（7月29日～3月31日）

竹島問題の啓発に資するため、大学生5人を学生解説員として委嘱し、8月11日から3月30日までの毎週土曜(8、9、3月は毎週木曜日も実施)、竹島資料室に来室された希望者に竹島問題に係るスライドを使い解説を行いました。

エ 下條文庫の創設

調査研究及び啓発活動に活用するために、県竹島問題研究特別顧問下條正男氏が長年にわたり収集されてきた史資料・古地図など約1,200点を購入しました。

<第2回竹島問題を考える講座>



<出張竹島資料室（益田市）>



<夏季企画展示>



<学生解説員の解説>



<下條文庫>



8 森林の保全及び整備に関する事業

(1)対象事業

県民の森整備費（森林林業体験活動推進事業）

(2)事業の成果及び事業費

景観維持・安全確保・快適利用のため、県民の森の環境整備を実施しました。
事業費：3,853千円

県民参加の森づくり活動の一環として、気軽に参加できる講座を充実させて、県民が森林や自然とふれあう機会を創出しました。

これにより県民が森林や林業に対する理解を深め、水を育む緑豊かな森を次世代に引き継いでいく県民意識の醸成を図りました。

令和4年度は13回の県民の森ふれあい講座を開催し、登山や木工体験に延べ215人の参加がありました。

また、森林林業体験活動のフィールドとなる県民の森において、枯損木の除去や遊歩道の整備・修繕など環境整備を行い、景観の維持、訪れた利用者の安全確保と快適利用を図りました。



※「早春の県民の森～琴引山縦走」：早春のブナ林を縦走



間伐材（丸太）で椅子作り：間伐材を使い、動物風の丸太椅子を作成

9 防災対策の推進に関する事業

(1)対象事業

地域防災人材育成研修

(2)事業の成果及び事業費

地域の防災力向上に向けて、自主防災組織の結成及び活動促進、防災意識向上につながる研修を実施、及び防災啓発チラシを作成しました。

事業費：888千円

ア 防災安全講演会（隠岐の島町）

- ・ 題目：なぜ人は逃げ遅れるのか
～地域防災力向上に向けた効率的な取組とは～
- ・ 講師：跡見学園女子大学
観光コミュニティ学部教授 鍵屋 一 氏
- ・ 日時・場所：令和4年10月15日（土）10:00～12:00
隠岐島文化会館 大ホール ほかWEB会場
- ・ 参加人数：183名（現地会場：95名、WEB会場：88名）



令和4年度 防災安全講演会

なぜ人は逃げ遅れるのか

参加料 無料
申込締め切り 9/29 (木)

～地域防災力向上に向けた効率的な取組とは～

災害時に求められる
主体的な自助・共助

本講演会は、島根県総合防災訓練の一環として開催いたします。
災害に対処するためには「自分事」として、事前に備えることが必要です。
地域で取り組む防災活動について理解を深め、いざという時に備えましょう。

日時 令和4年10月15日(土)
10:00～12:00<開場>9:15

場所 隠岐島文化会館 大ホール

主催 島根県・隠岐の島町

講師
跡見学園女子大学
観光コミュニティ学部
教授 鍵屋 一 氏

問い合わせ先 島根県防災部防災危機管理課 TEL:0852-22-6543

※新型コロナウイルス感染防止のため、マスクの着用及び受付での検温、手指消毒をお願いします。体調不良の際は参加をご遠慮ください。

イ 防災啓発チラシの作成

「風水害・土砂災害からあなたと大切な人の命を守るために」

風水害・土砂災害から あなたと大切な人の命を 守るために

— 警戒レベル4 避難指示までに必ず避難!! —

| 警戒レベル | 避難情報等 |
|--|---|
| 警戒レベル5 ^{※1} 命の危険 直ちに安全確保！ | 緊急安全確保 (市町村が発令) 既に災害が発生又は切迫している状況です。命が危険ですので、直ちに身の安全を確保しましょう。 |
| <警戒レベル4までに必ず避難！> | |
| 警戒レベル4 ^{※2} 危険な場所から 全員避難 | 避難指示 (市町村が発令) 災害が発生する危険が高まっています。速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。 |
| 警戒レベル3 ^{※2} 危険な場所から 高齢者等は避難 | 高齢者等避難 (市町村が発令) 避難に困難を呈する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）とその支援者は危険な場所から避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。 |
| 警戒レベル2 | 洪水注意報・大雨注意報等 (気象庁が発表) 避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。 |
| 警戒レベル1 | 早期注意情報 (気象庁が発表) 災害への心構えを高めましょう。 |

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

島根県防災部防災危機管理課

詳細はHPを
ご確認ください



災害から大切な命を守るため 防災情報を入手し、適切な避難行動を！

しまね防災情報ホームページ

島根県の各種防災情報を入手できます。

- 各種ハザードマップ（浸水・土砂災害・津波・ため池など）
 - 気象情報等 ●土砂災害情報 ●雨量・水位情報 ●道路規制情報
 - 避難情報 ●避難所情報 ●しまね防災メール（登録方法） など
- URL <https://www.bousai-shimane.jp>



しまね防災メール

防災情報や緊急のお知らせをメールで配信します。

- 市町村が発令する避難指示等の情報 ●気象注意報 ●土砂災害警戒情報
- 河川洪水予報 ●地震・津波情報 ●国民保護情報 など

どなたでもご登録いただけますので、ぜひご利用ください!!

・英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語、やさしい日本語でも配信しています。

・QRコードを読み込むと、登録用ページにアクセスできます。

・無料でご利用いただけますが、通信に要する費用（ケータイ利用料）は、ご利用される方の負担となります。



10 移住・定住の促進に関する事業

(1)対象事業

ふるさと島根定住推進事業

(2)事業の成果及び事業費

ふるさと島根定住財団を中心に、市町村や関係団体と連携し、地域別、年代別、性別など属性に応じたU・Iターンフェアを実施しました。

事業費：43,317千円

ア 移住・定住の促進を図るため、Uターン・Iターン希望者に対して相談・人材誘致のために大規模バーチャルイベント「しまね移住ワンダーランド」を実施しました。

＜開催日＞令和4年12月3日（土）

＜イベントサイト来訪ユーザー数＞2,346名



イ 島根県をオンライン上で訪問するツアー型移住交流イベント「しまね移住体感オンラインツアー」を実施しました。

＜開催テーマ（参加者数）＞

休日（100名）、お金（90名）

住まい（87名）移住のネック（114名）



ウ U・Iターンを希望する方向けに、対面型移住相談イベントを開催しました。

<大阪会場（グランフロント）>

- ・開催日：令和4年9月17日（土）
- ・参加者数：125名

<東京会場（国際フォーラム）>

- ・開催日：令和4年10月29日（土）
- ・参加者数：202名



1 1 結婚・出産・子育ての支援に関する事業

(1)対象事業

しまね保育実習等旅費支援事業

(2)事業の成果及び事業費

県内での就職を促すため、県外の学生が県内保育所等で実習する場合、旅費の一部を助成しました。

事業費：493千円

卒業後に島根県内での就職を促すとともに、ひいては子どもを安心して育てることができる環境整備を目的に、平成29年5月から事業を開始しました。

主に広島県、岡山県など中国地方を中心に、県外にある指定保育士養成施設の学生24名に対し、島根県内の保育所等で実施した保育実習、就業体験及びボランティアにかかる旅費を助成しました。

旅費を助成した24名のうち、令和5年3月に卒業の学生は、17名でした。

そのうち進路先が判明している8名のうち、8名の方が島根県内の保育所等に就職が決定し、現在各保育所等で保育士として活躍されています。

<事業内容>

- 旅費助成：24名
- 事業啓発用チラシ作成、郵送

島根県外で保育士を目指す
学生のみならず

しまね保育実習等 旅費支援事業のご案内

島根県外で保育を学ぶ学生が、県内の保育所での実習や就業体験・ボランティアを行う際の旅費を助成します。県内の保育所や子供たちの様子を知っていただき、就職のきっかけとしていただくことを目的としています。

(旅費補助対象) ※この事業は、「ふるさと島根補助金」を活用して実施しています。

応募資格
島根県外の保育士養成施設(※1)に在学し、島根県内の保育所等(※2)で保育実習や就業体験、ボランティアを行う学生が対象です。(島根県出身は除く。)

※1 児童福祉法第22条第2項第1号(1)第18号の6に基づき設置(設置認可)の施設とする保育士を養成する学校その他の施設
※2 保育所、認定こども園及び施設型保育事業所

助成金額
養成施設と保育所等の所在地に応じて定額で助成します。※1年度は11月のみ、なお滞費改定に伴い助成金額が変更となる場合があります。

| 保育所(実習先)の所在地 | 助成額 | 滞費額 | 総額 |
|--------------|---------|---------|---------|
| 島根県 | 6,900円 | 9,600円 | 9,100円 |
| 鳥取県 | 8,300円 | 14,800円 | 11,200円 |
| 広島県 | 6,900円 | 8,200円 | 15,300円 |
| 山口県 | 9,600円 | 6,900円 | 13,800円 |
| 大分県 | 13,200円 | 18,600円 | 16,100円 |

※上記以外の都道府県への滞費補助はありません。
※滞費額は必ずお支払いください。
※滞費額は島根県立中央センターホームページの最新情報をご覧ください。

申請方法
必要書類を保育実習等の実施終了日から1ヶ月以内にご提出ください。

募集期間
令和4年4月15日～令和5年3月2日
※申請期間に準拠して提出ください。
なお、応募状況によっては、早急に募集を締め切る場合があります。

お問い合わせ・申請書提出先
島根県社会福祉協議会(島根県福祉人材センター)
〒690-0011 松江市東津田町1741-3 いまいるプラザ島根2F
TEL:0852-32-5957 FAX:0852-32-5956
申請書はホームページにも掲載しています。https://www.shimane-ec.com/prac/06
島根県内の保育所を一覧で知らせて貰えます。

島根県社会福祉協議会会長様
しまね保育実習等旅費支援事業助成申請書(記入用)

(757) 年 月 日

氏名

生年月日 年 月 日 (歳)

居住地

連絡先(電話番号)

連絡先Eメール

保育士養成施設の名称 (学校名) (学年・学科名) (修業予定年度) 20 年 3月

保育士養成施設の所在地(都道府県) 市・区・町・村

実習先(保育所)の所在地(都道府県) 市・区・町・村

実習等の内容 保育実習・就業体験・ボランティア ※幼保連携型施設外となります。

実習等の期間 年 月 日 ~ 年 月 日

助成金申請額 円

〇助成金請求先情報 (助成金の振込を受ける口座の番号は必ずお記入してください)

(757) 年 月 日

口座名義

金融機関名 銀行・信託 郵便番号 本店住所

① 口座種別 普通 当座 口座番号

② ゆうちょ銀行 口座・通帳番号 暗号 (右側の記入)

【個人情報の取扱い】お預かりした個人情報は、本会が申請に係る事務にのみ利用し、島根県社会福祉協議会にて管理いたします。

以下の をご記入・チェックの上、ご返信をお願いします。

学生の申し込みまたは在学証明書の提出

右記のQRコードよりアンケートへの回答 (回答日 年 月 日)
※回答がなかった場合はアンケートに回答済みとみなされ、お問い合わせできません。

2023年3月9日までの令和5年3月に実施するアンケートに協力する。9割がメールで実施します。 https://www.shimane-ec.com/prac/06

〇実習先保育所記入欄

※以下の項目は実習先の保育所等にて記入ください。
上記の欄については、当該施設において保育実習等を実施した旨であることを証明します。

施設住所

施設名称

代表者氏名